

第1学年4組 図画工作科 「うきうきボックス」

学習活動・予想される児童の反応

- 1 前時の自分の振り返りを確認し、本時のめあてを立てる。
- ・「カラフル魚」にもっと色を足したいな。
 - ・「大きなくまさん」が動き出すようにしたいな。
 - ・「みんなのバス」は乗るところのドアを本物みたいになりたいな。

もっとはこをパワーアップさせよう。

- 2 友達や教師の作品を見たり、作品について質問し合ったりして、作品について意見交流をする。

かいたり
ぬったりして
パワーアップ

ざいりょうで
パワーアップ

はって
パワーアップ

かたちをかえて
パワーアップ

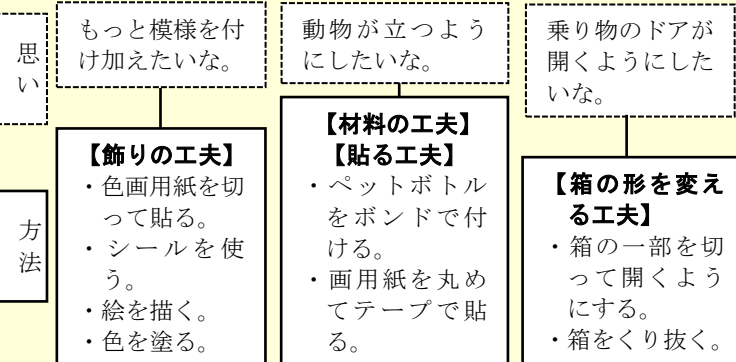
- ・「カラフル魚」は、もっと色画用紙を切り貼したら色が増えるよ。
- ・「大きなくまさん」の体に足をつけてみるのはどうかな？
- ・バスの窓は箱を切って開けるようにしたんだね。すごい！

- 3 前時の作品の表現を見直して、どのような工夫を加えていくか選択し、作品完成後に発表する。

- どのように作品づくりを進めるか、ワークシートに記入する。

- 付け加えたいことに合わせて、材料や飾りつけ方を工夫し、作品を完成させる。

【方法選択】



【個別と協働の一体的充実】

- ・ 友達の作品を見たり、自分の作品に助言をもらったりしたことを通して、新しい材料を使って、作業を試みる。
- ・ 真似したい技法を試す。

- 前時までの作品と完成した作品を比較し、本時付け加えた工夫等を発表する。

(前の作品はモニターに写した状態で)

- ・ 今日には箱に色画用紙をたくさん貼りました。名前が「カラフル魚」なので、鱗をさらさらにするために、ボンドでモールも付けてみました。

- 4 4つの視点をもとに学習を振り返る。

- 本時でできたことをワークシートから選択する。
- 作品づくりで頑張ったことを発表する。

- ・ 色画用紙を使ってパワーアップできました。
- ・ 友達に言われて、モールを付けることができてよかったです。

本時見られた深く学び続ける子どもの姿

- 付け加えたい工夫を具体的に考えることができるようにするために、前時の学習プリントをもとに確認させることで、どんなパワーアップにしたいか言語化することができた。

- 作品の工夫を増やすために、作品を鑑賞したことで、自身で考えていたパワーアップの内容以外にも工夫の幅の広がりが見られた。さらに、意見交流する際の工夫の視点を提示したことで、工夫の視点を絞って質問したり、アドバイスしたりする姿が見られた。

- 工夫を加えやすくするために、材料を準備（接着方法も記載）したことで、目的に合わせたパワーアップをする姿（資料1）が見られた。

- C1 「花壇にバラを咲かせるために、ティッシュ箱を花壇に（見えるように装飾）してバラを貼りました。」



【資料1本時の作品】

- また、交流しながら作品作りできるように、作りたい世界ごとに席を配置したことで、自分の思いを話しながら工夫を選択して活動する姿が見られた。

- 実行した工夫が分かるようにするために、活動前後を比較したことで、何でパワーアップしたか、誰とつなぎタイムを行ったか振り返る姿（資料3）が見られた。

- C2 「友だちに草を食べさせたら面白いと言われたので、草を食べさせました。」



【資料2前時の作品】



【資料3本時の作品】

- 作品名をあらかじめ具体的につけることで、作品作りの思いが明確になり、「つなぎタイム」の際も作品名をもとに意見交流しながら活動する姿が見られた。

- 前時の作品の比較により（ICTの活用）、活動の振り返りがしやすく、鑑賞の際にも友だちの作品の良さに気付くきっかけになっていた。またパワーアップの理由も思いをもとに話すことができた。

△接着方法の工夫を押さえる時間が少なく、方法選択後の机間巡視での指導になってしまった。